



MARUHA NICHIRO
GROUP

マルハニチログループ
CSR 報告書 2014（通常報告版）

世界に美味しいしあわせを

目次)

従業員とともに……………	2p
お取引先とともに……………	10p
地域社会とともに……………	11p
地球環境のために……………	23p
表彰実績……………	45p

従業員とともに



人権の尊重



人権を尊重する企業風土を醸成する取り組みを推進しています。

働きやすい職場環境づくり



働きやすい職場環境をめざし、さまざまな取り組みを行っています。

人材育成



従業員の成長を支援する教育・研修制度を設けています。

多様性の尊重



従業員一人ひとりを尊重するためのさまざまな制度を推進しています。

労働安全と健康管理



職場での安全確保や健康維持のための取り組みを重視しています。

従業員とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

人権の尊重

人権啓発研修の実施

マルハニチログループは、従業員がさまざまな人権問題について学ぶ人権啓発研修を毎年実施しています。その研修内容には、ハラスメントなどが起こらない職場づくりをめざすなどの項目も含まれています。

2013年度は8事業所で人権啓発研修を実施し、376名が受講しました。2014年度においても人権を尊重する企業風土のさらなる醸成をめざして、各事業所での研修に取り組んでいきます。



人権啓発研修の様子

従業員とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

働きやすい職場環境づくり

新しい人事制度の導入に向けて

2013年度は、社訓に掲げた「企業は何よりも人にある」「人は創意と進歩に生きる」を具現化できるような制度をめざし、2012年度より開始した労使合同の検討会を継続しておこないました。この結果、2014年4月より新しい人事制度の運用を開始しています。

また、新しい人事制度では、「経営計画の実現」と「ワークライフバランスの実現」を目標としています。

ワークライフバランス

多様な価値観を受容する柔軟な組織をめざして、マルハニチログループは、従業員が仕事とプライベートをともに充実させることのできる環境づくりに取り組んでいます。

従業員の年次有給休暇の取得率向上を支援する「計画年休制度」、産後から会社復帰までの育児を目的とする「育児休職制度」、さらに育児、介護の生活スタイルに合わせた働き方を支援する「短時間勤務制度」を整備し、多様なワークスタイルに対応する環境を整えているほか、2011年度からは、長時間労働の削減策として「ノー残業Day」を設定しています。

2014年からは、「保存休暇取得事由の拡張」（不妊および不妊治療事由、育児事由、ボランティア事由）、「在宅勤務制度」の試験運用、仕事と介護の両立支援情報提供体制の構築など、新しい取り組みを行いワークスタイルのさらなる多様化や介護する世代の増加に対応できる体制を整えていきます。

制度利用状況

	育児休職制度	介護休職制度
2013年度	19名（0名）	0名

※（ ）内男性社員利用者数

平均年次有給休暇取得日数

2012年度	8.1日
2013年度	8.1日

短時間勤務制度利用状況（2013年10月31日現在）

2013年度	19名
--------	-----

※ マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロホールディングスの3社の原籍正社員を対象範囲とした数値です。

労使関係

マルハニチログループでは、企業の永続的発展を実現し、従業員の生活安定を図るためには、良好な労使関係の維持・向上が前提にあると考えています。経営課題や生産性向上の諸課題、組合員の労働条件や総合福祉について、労使が共通の認識に立ち、双方の立場を尊重し、対等の立場で真剣に議論を深めるために、マルハニチロユニオンと「労使協議制」を導入し、労使対等の立場で協議する場を設けています。

この労使協議では、経営方針や経営状態などへの認識を労使が共有するとともに、労働条件等の諸課題については労使が合意するまで徹底的に議論することなどが定められています。

2013年度は、計15回の労使協議を実施しました。

従業員とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

人材育成

能力開発制度・研修の整備

企業を取り巻く環境は、近年においてグローバル化や少子高齢化など常に変化しています。このような環境変化に対応するためには、従業員一人ひとりが自らの仕事の質を高めることが重要です。マルハニチログループの能力開発制度は、こうした変化をふまえ、各種基礎能力・スキルの習得から専門性を高める学習まで幅広く対応した教育研修体系に基づき、従業員の能力を高め、補完的なキャリア開発を支援する制度です。

必修の階層別研修はキャリアの節目となる従業員が受講し、役割・責任に応じた必要な知識を習得します。選択研修は、各従業員が自主的に受講し、業務上必要とされる基礎スキルを学んで業務遂行能力を高めます。また、これらの集合研修とは別に、各個人の自己啓発を目的とした自己啓発研修や資格取得奨励制度など、通信研修の各種ラインアップを設けています。さらに、職場全体で新入社員を育成していく新入社員OJTを制度化し、集合研修としてOJTリーダー養成研修やフォローアップ研修を実施するなど新入社員教育の柱としています。

2013年度に実施された階層別研修、選択研修等の集合研修に参加した従業員は延べ861名でした。



マルハニチログループの能力開発制度に関するガイドブック

従業員とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

多様性の尊重

公正・公平な人材採用

マルハニチログループでは、多様性を尊重し、公正・公平な人材採用を実施しています。また、性別や年齢・勤続年数などにとらわれることなく、従業員一人ひとりが経験・技能を活かせるように能力開発を促進しています。

なお、2014年4月入社の新卒採用は、16社のグループ会社で実施し、採用者数は131名です。

雇用関連データ（2014年4月1日現在）

	全体	男性	女性
正社員平均年齢	41.2歳	42.1歳	37.1歳
正社員平均勤続年数	16.1年	16.5年	14.3年

※マルハニチロ水産、マルハニチロ食品、マルハニチロホールディングスの3社の原籍正社員を対象範囲としたデータです。

女性の活躍支援

マルハニチログループは、男女比率の偏りを是正するために、女性従業員比率の拡大を図っています。また、マルハニチログループは、家庭・育児と仕事の両立を支援しており、出産・育児に関わる女性従業員の多くが「短時間勤務制度」「育児休職制度」「産前・産後休暇」などを利用しています。今後は、マネジメント層の女性比率向上に向けて、階層別研修等を通じて各人の意識向上に努めていきます。

なお、2014年4月1日現在の女性従業員比率は18%、女性管理職比率は3%です。

従業員とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

労働安全と健康管理

労働安全衛生の基本的な考え方・体制

マルハニチログループは、従業員を大切に処遇するなかで、とくに労働安全衛生を重視しています。

就業規則や労働協約などの定めに基づいた労働安全衛生に関する委員会を事業所ごとに設置し、職場の問題点や改善点を確認して対策を講じています。また、マルハニチログループ主要会社では、毎月開催する労働安全衛生に関する委員会で時間外労働の実態を確認し、長時間労働の傾向が見られた場合は、ただちに対策を講じるなど改善に努めています。

労働災害の発生状況

マルハニチログループの事業会社各社では、事業内容や業容特性をふまえた労働災害防止活動に努めています。2013年（1月～12月）の国内主要グループ企業での労働災害発生状況は、度数率3.37%、強度率0.32%でした。

労働災害の防止に向けた取り組み

マルハニチロにおける労働安全活動

マルハニチロ各工場における労働安全活動は安全衛生委員会、OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）、ポルフ活動※の3つを柱として推進しています。

※ ポルフ（PPORF）活動：株式会社ポルフ開発研究所が開発したPractical Program Of Revolutions in Factoriesの略。工場革新のための実践的プログラム。あらゆる製造工場の製造体質を抜本的に革新する具体的な進め方とやさしい改善手法のこと

1. 安全衛生委員における安全パトロールの実施と改善
2. 従業員によるヒヤリハット提案の実施と改善
3. リスクアセスメントによる潜在的リスクの抽出とリスク低減策の実施
4. OHSAS18001システムにてPDCAをまわし、労災防止・労働関連法令の遵守徹底
5. ポルフ活動によるアクションプランの着実な実行
6. 避難訓練

健康診断の実施

マルハニチログループでは、従業員の疾病予防と健康増進に向けて毎年、全従業員を対象に健康診断を実施しています。2013年度は、全従業員の99%が健康診断を受診しました。

27歳以上の従業員に対しては、メタボリックシンドローム予防を目的とした特定検診を含む生活習慣病検診を実施しており、メタボリックシンドロームと診断された場合は、保健指導を行い生活習慣改善についてアドバイスします。また、被扶養配偶者に対しても、40歳以上を対象に特定検診を行っています。

メンタルヘルスケア

マルハニチログループでは、メンタルヘルスに対して、予防としてのセミナー、早期発見のための管理職など職場単位の研修、発症した場合の対応という3つの観点から対応しています。

メンタルヘルスに問題を抱えた従業員への対応として、担当部署に社内産業カウンセラーを配置しています。

また、メンタルヘルスは人それぞれの症状に応じた対応が必要とされており、会社の規定の範囲において個別に対応しています。

お取引先とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

公正取引の徹底を前提に、サプライヤー、販売先双方の皆さまと積極的に対話・協力しています。

公正な取引関係の構築

基本的な考え方

マルハニチログループは、法令を遵守することはいうまでもなく、お取引先との公正かつ透明な関係を継続していきたいと考えています。

役職員一人ひとりが守るべきCSR行動規準10ヵ条の中で、「公正かつ透明な取引」「関係先との健全な関係維持」「反社会的勢力への対応」を謳っています。マルハニチログループでは、すべての役職員にこの行動規準の浸透を図り、日々の仕事の中での実践を促すために、マニュアルを作成して全役職員に配布するとともに、国内グループ会社の事業所においてCSR・コンプライアンス研修を実施しています。

これからもお取引先との公正な取引関係の構築に継続的に取り組んでいきます。

下請法の遵守

マルハニチロ食品は、2008年1月からの調査により「下請代金支払遅延等防止法」に違反があったとして、2009年4月に公正取引委員会より勧告を受けました。この事実を真摯に受け止め、2008年11月よりお取引先との商取引を担う主要事業会社の役職員を中心に、下請法に関する教育・研修を実施しています。

2013年は11月に実施し、マルハニチロホールディングス、マルハニチロ食品、マルハニチロ水産、マルハニチロ畜産から209名の役職員が受講しました。今後も引き続き下請法の理解と浸透に努めるとともに、その遵守を徹底していきます。

地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

マルハニチログループは、社会貢献方針を策定し、「食育」「文化・教育」「清掃活動」「環境活動」「災害支援」などをテーマに、全国各地でさまざまな支援活動やイベントに取り組んでいます。今後も各地での活動を継続するとともに、海外での貢献活動も推進していきます。

マルハニチログループ社会貢献方針

1. “食を通じた健康増進” および “食文化の維持と創造” を目的とした活動に取り組みます。
2. 自然の恵みに感謝する心を養い、持続的な食料資源の確保を図るために、生物多様性を保全する活動を支援・協力します。
3. マルハニチロの持つ人・モノ・技術など経営資源を有効に生かせる活動を行います。
4. 社員がよき企業市民として社会貢献活動に積極的に取り組める風土を作ります。
5. 激甚災害発生時の支援体制の整備を進めます。

地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

食育

マルハニチログループは皆さまに「おいしいしあわせ」をお届けしたいとの願いから、食育活動の一環として体験教室や料理教室などを開催しています。食のプロフェッショナルとしての蓄積を活かし、食の安全・安心に関する普及活動にとどまらず、当社グループの商品を通じて、豊かな食文化の創造に貢献する活動を推進していきます。

おいしいしあわせ！のヒミツ体験教室を開催（マルハニチログループ）

マルハニチログループでは、「おいしいしあわせ！のヒミツ体験教室」を2011年から実施しています。

マルハニチロ豊洲本社（東京都江東区）に、近隣にお住いの親子をお招きし、グループ各社の従業員が講師となり、各社が扱う食材や商品のおいしい秘密をお伝えして学んでいただく教室です。

2013年度は計60組139人の方にご参加いただきました。

また、マルハニチロホールディングス中央研究所は、所在地であるつくば地区の小学生を対象に、サケの一生を通して“いのち”の大切さについて学び、その“いのち”を次の世代につないでいるDNAを、サケの白子から抽出する実験を行う「理科授業」に取り組んでいます。

2012年度に引き続き、夏休み特別企画として豊洲の本社でも実施しました。



「フィッシュソーセージ」体験教室



「さんまと触れ合う」体験教室（さんまを描写しています）

第二回 夕張工場 親子見学ツアーを実施（アクリフーズ）

アクリフーズは、地域の皆さまとの交流を深める活動を積極的に行っています。

その一環として、昨年に引き続き、札幌地区の量販店と共同企画「アクリフーズ夕張工場ツアー」を、キャンペーンに応募いただいた中から10組の親子をご招待して2013年7月27日に実施しました。

工場見学のほか、「親子でキャラ弁づくりにチャレンジ！」やランチパーティ、夕張メロン選果場も見学していただきました。



「作ってみよう！！マイランチ（マイデザート）＆マイCAN」親子教室を共催（マルハニチロ食品）

マルハニチロ食品は、楽しく豪華なランチやデザートを作る親子教室「作ってみよう！！マイランチ（マイデザート）＆マイCAN」を2013年7月31日に広島地区の量販店と共同開催し、親子15組が参加しました。

この教室では、マルハニチロ食品が販売する商品を使って、簡単で栄養のよいお弁当を、見栄えよく作るコツや商品情報などを織り交ぜながら紹介しました。

また、子どもたちは宝物を各自持参し、手動製缶機を使って缶に詰め、自分だけのオリジナル缶詰をつくりました。



魚肉ソーセージ工場見学＆料理教室を共催（マルハニチロ食品）

マルハニチロ食品では、2013年8月1日に、「魚肉ソーセージ工場見学＆料理教室」を18組の親子をご招待して栃木県の宇都宮工場で、関東地区の量販店と共同開催しました。

工場見学では、魚肉ソーセージの製造工程を見学後、原料に触れたり、DHAやマグロ・カツオの魚油の匂いを嗅ぐなど体験し、できたての魚肉ソーセージもご試食いただきました。

料理教室ではマルハニチロ食品の商品を使って海苔巻きやサラダをつくりました。



KIDS－シェフを開催（ヤヨイ食品（株）（現（株）ヤヨイサンフーズ））

2013年11月22日、宮城県気仙沼市立鹿折小学校5年生の生徒たちが、三國シェフら7名のシェフによる味覚の授業を受けました。本物を味わい、地元の食材を使った料理を実際に作ることで、食事の楽しさや、地元の食文化の素晴らしさを学んでもらう授業です。

2000年から全国の小学校で始めた授業は、今回で47回目になりました。



食育関連サイト（マルハニチログループ）

マルハニチログループでは「おさかなで考えるマルハニチロの食育」をはじめ、「おさかなギャラリー」や「フィッシュソーセージA to Z」など“食”について「知って・楽しんで・得する情報」をwebサイトで発信しています。

地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

文化・教育

マルハニチログループでは文化・教育の発展に貢献するために、職場訪問の受け入れや学習協力など、地域社会に根ざした活動に取り組んでいます。

小学校で理科実験授業を実施（マルハニチロホールディングス中央研究所）

マルハニチロホールディングス中央研究所では、2008年から近隣の小学校に出向いての特別授業として、理科の実験授業を行っています。地域社会への貢献、そして科学を活用した理科教育への働きかけを目的とし、オリジナルプログラムで開催する実験授業です。

6年目となる2013年度も、茨城県つくば市内の小学校で「これで君もサケ博士！サケの誕生物語と生命の設計図のひみつ」と題し、研究員が小学5・6年生を対象に、サケの成魚観察やDNA抽出実験などの授業を行っています。



サケの白子を使ったDNA抽出実験では、小学生でも扱いやすい器具や試薬などを使って抽出したDNAを実際に手に取り、その色や感触を確かめていました。

授業のまとめとして、産卵が終わり力尽きたサケの写真を子どもたちに見せて、新しい命をつないでいく営みがいかに大変なことかを理解させ、命の大切さ、命を源とする食べ物の大切さ、そして命を育む自然の大切さの三つを伝えました。

2013年度はつくば市内の小学生述べ8校423名が授業を受けました。

第22回青少年のための科学の祭典2013全国大会 出展（マルハニチロホールディングス）

科学的思考を身につけた創造性豊かな人材の育成と、青少年が科学技術に親しむ環境づくりを目的として2013年7月27日-28日に開催された公益財団法人 日本科学技術振興財団の大会に、マルハニチロホールディングス中央研究所が初めて出展し、理科実験授業を行いました。



「MOTTAINAIキャンペーン」への協賛（マルハニチログループ）

マルハニチログループは、各地で開催されている「MOTTAINAIキャンペーン」の趣旨に賛同し、地球資源の大切さや、人やモノに感謝する気持ちを、子どもたちに楽しみながら学んでもらうことを目的とした、「MOTTAINAIキャンペーン」事務局主催のイベントに協賛および企画協力を行っています。

2013年度は、9月28日に、昨年に続きイオンモール名取（宮城県名取市）で開催しました。

※ MOTTAINAIキャンペーン：「もったいない」を世界共通語「MOTTAINAI」として広め、循環型社会の構築をめざす活動。



さかなクンのおさかな講座



小学生理科実験授業



料理教室

第31回 江東区民まつり 参加（マルハニチログループ）

2013年10月19日20日に、江東区内最大級のイベントが都立木場公園にて開催され、27万人が来場されました。マルハニチログループは、地域社会への参画とブランドの認知度向上を目的に毎年参加しています。



「芝浦工業大学豊洲キャンパス 第8回大学開放DAY！」ブース出展（マルハニチログループ）

2013年12月15日（日）に、芝浦工業大学主催の豊洲キャンパスにて開催された「第8回大学開放DAY！」に「世界にひとつだけのオリジナル缶詰づくり」のブースを出展しました。



地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

清掃活動

マルハニチログループでは、地域社会への参画の一環として、事業所に応じて清掃活動に継続して取り組んでいます。

夕張工場周辺の清掃活動（マルハニチログループ）

アクリフーズ夕張工場では、毎年周辺道路の清掃を実施しています。今年は2013年5月25日に、工場の従業員のみならずアクリフーズ北海道支店、マルハニチロ食品北海道支社、マルハニチロ北日本十勝工場の従業員や家族も協力し、最寄駅までの周辺道路を清掃しました。



広島平和記念公園一斉清掃への参加（マルハニチログループ）

毎年8月6日に開催される広島平和記念式典にあたっては、環境美化運動の一環として、また平和意識高揚のため、会場の平和記念公園一体で一斉清掃が実施されています。

広島市が呼びかけるこの活動に、マルハニチログループは毎年恒例の活動として参加しています。48回目を迎えた2013年は7月30日に実施され、マルハニチロ食品、マルハニチロ水産、アクリフーズ各社の従業員19人が参加しました。



「コスモ アースコンシャスアクト・クリーンキャンペーン in 角島」への参加（マルハニチロ食品）

マルハニチロ食品下関工場の従業員有志およびその家族32人は2013年10月20日、自然と親しみながら地球環境の保護と保全を呼びかける活動「コスモアースコンシャスアクト・クリーンキャンペーン in 角島」に参加しました。この活動は、コスモ石油とFM山口の呼びかけで実施されたもので、このイベントの他にも、活動に賛同する全国のFM局により、各地で開催されるクリーンキャンペーンです。



事業所および駅周辺の清掃活動（日本サイロ）

日本サイロでは、事業所周辺の清掃活動を毎月定期的に行っています。従業員が通勤に利用する最寄駅周辺まで範囲を拡大し、地域美化に貢献する清掃活動として役職員が自主的に実施している取り組みです。



地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

環境活動

マルハニチログループでは、かけがえのない地球環境を守り、次の世代に“おいしいしあわせ”を引き継ぐために、地球環境を保全する活動を支援・協力しています。

「荒川クリーンエイド」への参加（マルハニチログループ）

東京を流れる荒川をきれいにし、自然を取り戻そうとする活動「荒川クリーンエイド」が、NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラムを中心に推進されています。荒川一帯で企業や市民などの団体が主体的に参加者を募って取り組む活動で、年間約1万人が参加する活動です。

マルハニチログループではこれまで9年にわたり、神奈川県の大磯海岸でクリーンアップ活動に参加してきましたが、2013年度は実施団体の一つとして単独開催。9月21日に従業員とその家族33人が参加して、葛西橋下流（東京都江戸川区）で実施しました。

この活動の特長は、清掃にとどまらず自然回復に向けた環境保全活動とのリンクにあります。今回の活動では、拾ったゴミの内容を報告して発生抑制に寄与するとともに、昆虫をテーマとした自然環境教室を開催して豊かな生態系について学びました。



グリーンベルト植栽活動参加（大洋エーアンドエフ）

2014年3月8日、大洋エーアンドエフ（株）沖縄事業所は、沖縄県本部町で行われた本部町赤土等流出防止対策事業「グリーンベルト植栽活動」に参加しました。この活動は赤土流出による周辺海域のサンゴ礁への被害を防止することを目的としていますが、クロマグロの養殖いけすへの被害防止も期待できることから、2011年より参加しています。



地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

フードバンク

食品業界では、安全に食べることができるにもかかわらず、さまざまな理由で流通が困難になった商品が発生します。こうした商品を、福祉施設・団体などへ無償で提供する民間団体の活動「フードバンク」が日本でも広がっています。マルハニチログループでは、福祉向上に寄与するだけでなく、廃棄物の発生を抑制する取り組みとしてフードバンク活動に協力しています。

2013年度は、41回にわたり、冷凍食品や缶詰など約3,800ケースをフードバンクの草分け的存在である特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパンを介して、母子支援施設などへ寄贈しました。これらは、輸入検査のために数バック抜き取られ、ケース入数が不足した商品や、都合により販売が終了した商品などです。



地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

社会貢献活動（2013年度）

その他の社会貢献活動

マルハニチログループでは、公益に関するさまざまな活動に協賛しています。

漁船海難遺児育英基金への寄付（マルハニチログループ）

マルハニチログループでは、公益財団法人「漁船海難遺児育英会」の事業趣旨に賛同し、従業員からの募金を毎年寄付しています。

児童絵画コンクールへの協賛（マルハニチログループ）

マルハニチログループでは、サークルクラブ協会などが主催する「我ら海の子展」に協賛しています。海から多くの事業の糧を得ている当社グループにとって、「私の海」をテーマとしたこの児童絵画コンクールの開催趣旨が合致することから、副賞としてマルハニチロ食品の商品を寄贈しています。



第41回「我ら海の子展」
国土交通大臣賞
梅元 泰伸君（小5）
「岸壁の大型船」

地域社会とともに



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

海外での取り組み

Fish for Kids Program (ピーターパンシーフーズ社)

マルハニチログループの中でも、アラスカ産天然ベニザケをもっとも多く取り扱うピーターパンシーフーズ社は、アラスカ州プリストル湾において100年以上にわたりベニザケの加工事業を行っています。その中のひとつでもあるデリングハム工場では、プリストル湾で獲れたベニザケを地元の方々においしく食べてもらうため、「Fish for Kids」というプログラムを現地の漁師の方々ともに行っています。このプログラムは、地元の学校給食で出されていた、パン粉をつけただけの魚や養殖魚のフライのみに限られていた魚のメニューを改善することを目的として始まりました。ベニザケの冷凍フィーレ加工の生産を行うピーターパンシーフーズ社は、地元の漁師の方々にポスターやラジオで活動への参加を呼びかけ、漁獲したベニザケを、デリングハム工場ではフィーレ加工し、学校給食向けに無償で提供。学校では、この製品からSalmonタコス、Salmonバーガー、Salmonテリヤキなど、多彩なメニューをつくり上げることができ、子どもたちにも好評を得ました。その後、このプログラムは学校給食のみならず、老人ホーム、保育園など、現在では合計4ヵ所の施設まで広がって継続されています。この取り組みは、地域の食生活を向上させるのみでなく、ネイティブの人々に伝わる食文化の伝承、および地元で獲れる天然資源への理解を深めることへ繋がり、大変好評を得ています。



提供されたベニザケ製品



ベニザケを提供した時の様子（地元の生徒さん、シニアセンターの方々とデリングハム工場長 Tom氏（左から5人目））

教育および子供達への支援（アメリカ）

かにかまぼこ製品で全米小売市場トップシェアを誇る水産加工・販売を行っているマルハニチログループのトランスオーシャンプロダクツ（TOP）では、教育支援と子どもたちに向けた支援を軸に、地域社会に貢献しています。

かにかまぼこ工場のあるベーリンガムは、ワシントン州シアトルから車で北に2時間弱の、カナダの国境近くにある人口8万人の風光明媚な町です。2010年5月に2万人の学生を抱える地元のウエスタンワシントン大学で、日本の文化や学術が紹介される恒例のジャパンウィークが開催されました。

TOP社では1997年以来14年間継続してこのイベントを支援しており、2000年以降は、TOPの社員が地元のベーリンガムテクニカルカレッジ（科学技術短期大学）の諮問委員会の委員を務めています。

2010年度は、職業体験学習の一環として、かつて工場で使用していた旧式のボイラーを寄付し、その操作方法を教えて学生の工場現場見学の受け入れを行うなど、学生たちの教育支援も行っています。

アメリカでは、2008年のアメリカ金融危機以来、税収の減少と、景気浮揚のための財政政策の増加で、政府、自治体の赤字が大きく膨らみ、福祉への支援が先細りしています。2010年度も、従業員がさまざまな資金調達のための募金活動に参加したり、子供たちを支援する約7つのNGOに参加し、イベントを企画したり、英語を第二外国語とする学生のために、英語授業のサポートを行ったり、地元高校のロボット競技チームへの寄付などを行いました。これからも地元根を下ろした企業として、さまざまなかたちで支援を続けていきます。



ロボット競技チーム

地球環境のために



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

環境理念・方針

マルハニチログループはグループ環境理念・方針のもと、環境経営に取り組んでいます。

環境マネジメント

環境経営の推進体制を構築し、活動の継続的改善に努めています。

省エネルギー・温室効果ガス排出削減

2013年度までにCO₂排出総量を2010年度比3%以上削減することを目標に取り組んでいます。

オゾン層破壊物質の削減

2020年までのフロン（R-22）の全廃に向け、自然冷媒を使用した設備導入を推進しています。

廃棄物発生量・最終処分量の削減

2013年度までに廃棄物総排出量を2010年度比3%以上削減することを目標に取り組んでいます。

環境関連データ

マルハニチログループにおけるエネルギー投入量などを集計し、環境負荷の把握と改善を推進しています。

生物多様性の保全

生物多様性の保全に向けたさまざまな取り組みに賛同・協力しています。

環境配慮商品

環境に配慮した商品の開発に努めています。



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

環境理念・方針

地球では今、世界人口の急激な増加、地球温暖化、資源の枯渇、生態系の破壊などが深刻化しており、将来にわたって人と多様な動植物がともに生き、自然の生産力を維持し続けていくことが困難な状況になってきています。

このような時代背景の中、当社グループでは「食」という人間の営みの根幹を今後も支え続けるために、環境に対してどのような配慮が必要なのかを検討し、2008年に「マルハニチログループ環境理念」を制定するとともに、この環境理念を具体的な方針に落とし込んだ「マルハニチログループ環境方針」を制定し、グループ全体で環境経営に取り組んでいます。

なお、環境理念と環境方針は、Webサイトやイントラネット、従業員教育を通じて、グループ全従業員への周知徹底を図っています。

環境理念

私たちマルハニチログループは、食品という地球の豊かな自然の恵みを受けて、事業を営んでいます。
私たちは、このかけがえのない地球自然環境や生物の多様性を守り、持続可能な社会の実現に貢献します。

環境方針

1. 環境に配慮した製品・サービスを提供します。
2. 限られた資源を有効に使用するとともに、環境負荷の極小化に努めます。
3. 環境に関わる企業情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。
4. 環境関連の法規制を遵守します。
5. 従業員一人ひとりが自然の恵みに感謝する意識を高め、環境保全活動にも積極的に取り組みます。
6. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図ります。

地球環境のために



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

環境マネジメント

環境マネジメント体制

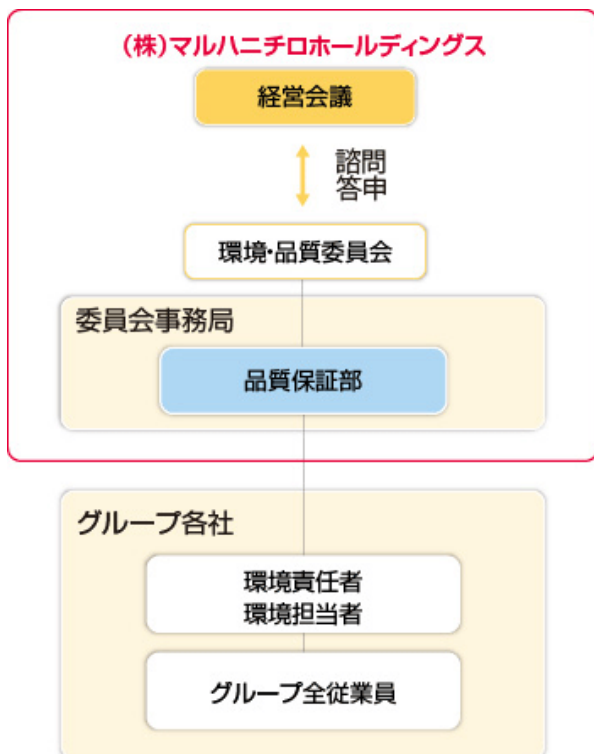
マルハニチロホールディングスでは、経営会議の諮問機関として「環境・品質委員会」を設置しています。

同委員会は経営会議で任命された委員長と委員から構成されます。委員長・委員の任期は1年で、2013年度はマルハニチロホールディングスの環境・品質担当役員を委員長とし、主要グループ会社の担当役員および実務担当部署長で委員会を構成しました。

同委員会は年2回開催され、環境保全・品質保証に関するグループ全体の計画や、それに基づく各種施策を策定・承認しています。2013年度は5月と11月に委員会を開催し、環境中期計画に基づいたグループ各社の活動計画と進捗報告が行われました。

環境・品質委員会で定められた計画・施策は、グループ各社に設置された環境責任者を介して周知され、各社にて具体的な施策を立案・実施しています。

環境推進体制



ISO14001の認証取得状況

マルハニチログループでは、国内生産工場において環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証取得を推進しています。2014年度4月現在、国内生産拠点を中心に、6企業22事業所でISO14001を取得しています。

今後、まだ取得できていないグループ各社におきましても、ISO14001を順次取得していく方針です。

マルハニチログループISO14001取得企業一覧（2013年3月31日時点）

企業名	適用事業場
浙江興業集团有限公司	
マルハニチロ食品 (マルチサイト認証※)	本社（生産管理部）、化成バイオ事業部森、化成バイオ事業部宇都宮、石巻工場、大江工場、宇都宮工場、広島工場、下関工場
アクリフーズ	群馬工場
マルハニチロ北日本 (マルチサイト認証※)	本社（生産管理部）、森工場、釧路工場、宗谷工場、青森工場
土谷食品	
マルハニチロ九州	
ニチロ畜産	札幌工場
	十勝工場
	名寄工場
ニチロサンフーズ	生産本部
	長岡工場
ヤヨイ食品	清水工場
	九州第1工場

※ マルチサイト認証とは複数の事業場を一括して受ける認証をいいます。

グリーン経営認証の取得

マルハニチロ物流では、ISO14001に代えて、運輸事業者向けの環境マネジメントシステムである「グリーン経営認証」の取得を推進しています。公益財団法人「交通エコロジーモビリティ財団」が認証機関となって推進するこの制度は、同財団と国土交通省がISO14001に基づき作成したグリーン経営推進マニュアルに則り、事業者自らが省エネ等の目標を設定して環境改善活動に取り組み、認証機関による審査を受ける制度となっています。

マルハニチロ物流では2010年度から本認証の取得に着手し、2011年度はまず6カ所の物流センターの認証を取得しました。また、2012年度は6部門で、2013年度はさらに6部門で認証を取得し、3年間で合計18部門の認証取得となりました。引き続き、同マネジメントシステムの定着化を進めるべく、従業員へのシステム説明（教育）、“グリーン経営認証啓蒙ポスター”の掲示などの活動にも取り組んでいます。

マルハニチロ物流 グリーン経営認証 取得年度・部門一覧

2011年度	船橋物流センター 城南島物流センター 築港物流センター 六甲物流センター 鳥栖物流センター 唐津物流センター
2012年度	川崎第一物流センター 川崎第二物流センター 日比野物流センター/関西・中部支社 咲洲物流センター 箱崎物流センター/九州支社 箱崎第二物流センター
2013年度	本社・関東支社 豊海物流センター 南港物流センター/関西・中部支社 福岡物流センター 北野物流センター 谷山物流センター



グリーン経営認証監査の様子



グリーン経営認証 ロゴマーク

環境監査

ISO14001を取得しているマルハニチログループの各工場では、工場ごとに環境監査員を選任し、内部環境監査を定期的に行っています。

また、複数の工場を有するマルハニチロ食品とマルハニチロ北日本では、自工場だけでなく他工場の監査員を加えた相互監査を実施しています。この監査により、より客観的な視点での審査が可能になるほか、監査スキルの向上や環境保全に関する工場間の情報交換促進などの効果を上げています。

内部監査に加え、マルハニチロホールディングスの監査部と環境・品質保証部が連携し、環境・品質面の監査を実施しています。2013年度は、8企業（10部署）を監査しました。

マルハニチログループ環境監査一覧

監査名	対象企業	実施内容
ISO14001 内部監査	ISO14001取得 企業	環境経営の国際規格であるISO14001の要求事項をもとに、自社内で監査チームを編成して、環境マネジメントシステムの自己チェックを実施。
ISO14001 相互監査	ISO14001取得 企業（MN食 品、MN北日 本）	ISO14001の内部監査において、被監査工場以外の工場から監査員を派遣。被監査工場の従業員では気付かない指摘・留意事項の洗い出しが目的。
ISO14001 外部監査	ISO14001取得 企業	ISO14001に基づいて認証機関が行う「マネジメントシステム審査」
監査部監査	マルハニチログ ループ全企業	<p>マルハニチロホールディングス監査部が実施しているグループ企業に対する監査において、いくつかの企業について環境・品質保証部の部員が同行し、環境・品質面でより内容を掘り下げた監査を実施。</p> <p>●環境・品質保証部の同行による監査実施企業（2013年度） マルハミート&デリカ（株）、煙台日露大食品、煙台阿克力食品、（株）MN北日本（青森工場、釧路工場、富良野工場）、広洋水産（株）、（株）サングルメ、（株）大洋食品、大都魚類（株）</p>

環境リスクマネジメント

マルハニチログループでは、工場から排出される排水の法令基準の逸脱（BOD※1、COD※2）、保管されている薬品・油の漏洩、廃棄物の不適切処理をリスクと捉え、管理体制の強化を図っています。

ISO14001認証取得事業場においては、システムに沿った管理手順の整備、業務従事者への教育、定期的なモニタリングの実施により管理を行なっています。また、認証未取得の事業場においても環境巡回（環境監査）の実施等により、事業場ごとに管理体制の構築、手順の整備等を進めています。

※1 BOD：生物化学的酸素要求量。CODとともに水質測定に用いられる指標。

※2 COD：化学的酸素要求量

従業員への環境教育

マルハニチログループでは、従業員一人ひとりの環境保全への意識を高め積極的な行動を促すために、研修やグループ内広報活動に力を入れています。

例えば、毎年実施する階層別研修やCSR・コンプライアンス研修に、環境に関する啓発プログラムを盛り込んでいます。2013年度は、69回のCSR・コンプライアンス研修を実施し、計1,950名の従業員が受講しました。

また、マルハニチログループでは従業員を対象とした環境法令の説明会も定期的を開催しています。2014年度につきましても、グループ内の廃棄物処理の実務担当者に向けた法令説明会を計画しております。

また、グループ役職員との情報共有ツールであるイントラネットサイトを通じて、グループ内外の環境関連の情報を提供しています。例えば、環境問題に関する情報をA4サイズ2枚程度のPDFファイルにわかりやすくまとめたPR誌「環境通信」を3か月に1回程度発行しており、従業員の環境に対する意識向上を図っています。



CSR・コンプライアンス研修



廃棄物処理法説明会



イントラネットサイトから閲覧できる環境通信。この時のテーマは「生物多様性に触れてみよう！」

環境法規制の遵守状況

水質汚濁、大気汚染、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、エネルギー消費、廃棄物処理などを防止・規制するため、さまざまな法令が運用されています。マルハニチログループは、さまざまな活動を通じて、これら環境法規制の遵守に努めています。

ISO14001を取得している工場では自工場に適用される環境法令を一覧表形式で整理し、年1回以上、遵守状況を確認しています。また、マルハニチロホールディングス環境・品質保証部が作成した「環境法令チェックリスト」を用いて、すべてのグループ会社で、環境法令の遵守状況を自己チェックしています。



環境法令チェックリスト

また2010年度からはマルハニチロホールディングスの環境担当者がグループ内の工場を訪問し、環境法令の遵守体制や法規制に基づく記録などを確認する環境巡回を行っています。

なお、2013年度においても、国内製造工場、養殖場などの巡回を実施しましたが、環境法規制の重大な違反はありませんでした。

2013年度 環境巡回先

国内製造工場、物流センター、倉庫	ニチロ毛皮 丸子工場、日本サイロ、マルハニチロ物流豊海物流センター
養殖場	奄美養魚（本店、篠川支店）、熊野養魚、串本マリンファーム、桜島養魚、アクアファーム（本店、島浦支店）、玄海養魚、マルハニチロ上ノ国海産、大洋エーアンドエフ（五島事業所、奈留事業所）

適時適切な情報開示の実施

マルハニチログループでは、グループの環境に関する情報や取り組みについて、1年ごとに活動内容をまとめ、WebサイトやCSR報告書を通じて積極的に情報発信しています。

開示情報

- 環境理念・方針
- マテリアルバランス（インプット・アウトプット）
- 生物多様性の保全
- 水資源の有効利用
- 環境マネジメント
- 省エネルギー・温室効果ガス排出削減
- 廃棄物発生量・最終処分量の削減
- 環境配慮商品



CSR報告書



社会・環境活動Webサイト

環境コミュニケーション活動

マルハニチロ食品の宇都宮工場では、宇都宮市環境保全課が実施する「環境保全活動に取り組む事業者の具体的な紹介」活動に2010年から参加しています。

環境に関する正しい理解と知識を深めていただくために、市民を対象として各企業で工場見学会を開催する活動です。2013年8月に開催した活動では、参加者の小学生とご家族に、宇都宮工場で展開している環境にやさしい工場をめざした取り組みを紹介しました。



宇都宮工場における工場見学会の様子



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

省エネルギー・温室効果ガス排出削減

2013年度の総括（目標と実績）

マルハニチログループでは、2011年度から2013年度までの3年間で、2010年度を基準年としてCO₂排出総量を3%以上削減することをグループ共通の目標に掲げました。

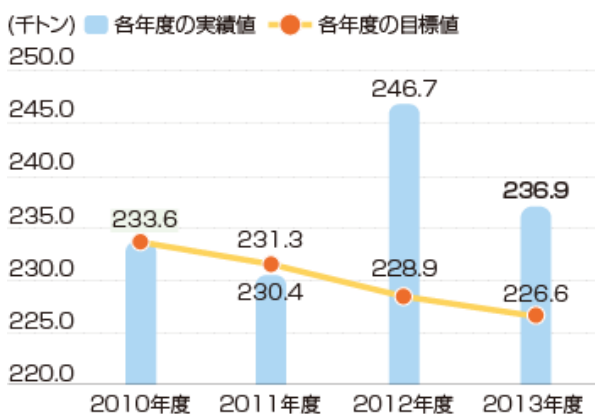
この目標達成に向けて、グループ会社各社では、「省エネ設備の導入」や「オフィスにおける節電対策」「使用電力の監視強化」などさまざまな環境改善テーマを設定し、対策を実施して参りました。

2013年度も設備メンテナンス強化によるエネルギーロスの削減、設備導入・作業改善など生産効率向上による省エネ、LED照明の導入など各社ごとに削減目標を設定して取り組んだ結果、CO₂排出総量は、グループ全体で236,933トンとなり、2010年度比で3,339トン（1.4%）の増となりました。

増加要因は、2012年度より、新たにヤヨイ食品およびマルハニチロ九州などのCO₂排出量を集計に加えたことによりますが、この新規集計分を除いた2013年度の結果は、グループ全体で2010年度比-5.2%※となります。

※ 2010年度の計画策定時点と2013年度のデータが揃っている企業32社を抽出し、集計。

CO₂排出量削減／進捗状況



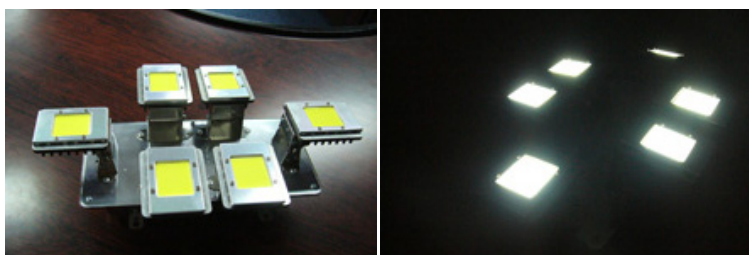
※ 2012年度から、新たにヤヨイ食品、マルハニチロ九州など6社を集計対象に加えています。

LED照明の導入（マルハニチロ物流）

日本各地の港湾地区を中心に全国37拠点、58万トンの冷蔵倉庫ネットワークを活用して低温食品物流事業を展開するマルハニチロ物流では、冷蔵倉庫で使用する代替フロンを自然冷媒化とともに、年間約1億kWhにのぼる電気使用量の削減を推進することがCO₂削減に繋がる重要テーマとなっており、①冷蔵設備の自然冷媒化 ②LED照明の導入（電気使用量の削減）を計画の2本柱として活動を推進しています。

LED照明の導入にあたっては、2011年度に箱崎物流センター内の全冷蔵室にLED照明を試験導入し、性能や耐久性などの検証を開始しました。同センターでは 200W耐震電球を1,000個以上使用していましたが、このすべてを14WのLED照明に変更したことにより、もとの明るさを保ったままで電力使用量を年間約90万kWh、CO₂排出量では年間約300トン削減することができました。また2011年度は、咲洲物流センター、北野物流センターおよび野田事業所、2012年度は、城南島、唐津、福岡の各物流センターに、LED照明を導入しました。

2013年度以降は川崎第二、六甲、谷山の各物流センターでの導入を計画・実施しています。このほかの事業所においても、LED照明への切り替えを計画的に実施していく予定です。



城南島の物流センターに設置したLED照明



LED照明設置倉庫の庫内

LED照明の導入（九州中央魚市）

九州中央魚市株式会社では、環境配慮対策や社会貢献活動に積極的に取り組むという方針のもと、管理部を中心に取り組みテーマの検討を続けています。その一環として、2012年10月から事業所内の照明のLED化を検討しはじめ、導入試験を経て、2013年6月に、熊本市場のセリ場全域（237台）や会社事務所（179台）の照明をすべてLED照明に入れ替えました。

セリ場は110Wの電球を44WのLED照明へ、また、会社事務所は40Wの電球を22WのLED照明に変更したことにより、電力使用量では年間約5万kWh、CO₂排出量では年間約28トンの削減を見込んでいます。なお、熊本市場のセリ場はもう1社の卸売業者との共用であるため、同社と交渉・十分な検討を行ったことで、セリ場全域へのLED照明の一斉導入を実現しています。

また、鹿児島市場においては、鹿児島市中央卸売市場整備計画（計画期間2012年度から2018年度まで）に基づいた再整備を契機に、LED照明の採用が進められています。



今回導入した灯器タイプのLED（左）と蛍光灯タイプのLED（右）



LED照明導入後のセリ場風景



事務所内の照明もLED照明に更新

節電への取り組み

マルハニチログループの各工場においてさまざまな工夫をこらし節電対策を実施しています。電力消費が大きい機械を停止させても業務に影響を与えない時間を洗い出し、それらの稼働の一時中断を実施しています。

また、事務所や工場の廊下の電球を間引き、夏季には空冷式室外機や屋根への散水を行い冷凍機の稼働負荷の軽減を図っています。また遮光フィルム敷設とブラインドカーテンの積極活用により部屋の温度上昇と冷房負荷を抑えています。事務所など、現場以外の職場の空調設定温度を2℃上げています。

稼働を一時中断させる消費電力の大きい機械



ガス液化器（40kwH）



排水プロアー（55kwH/台）



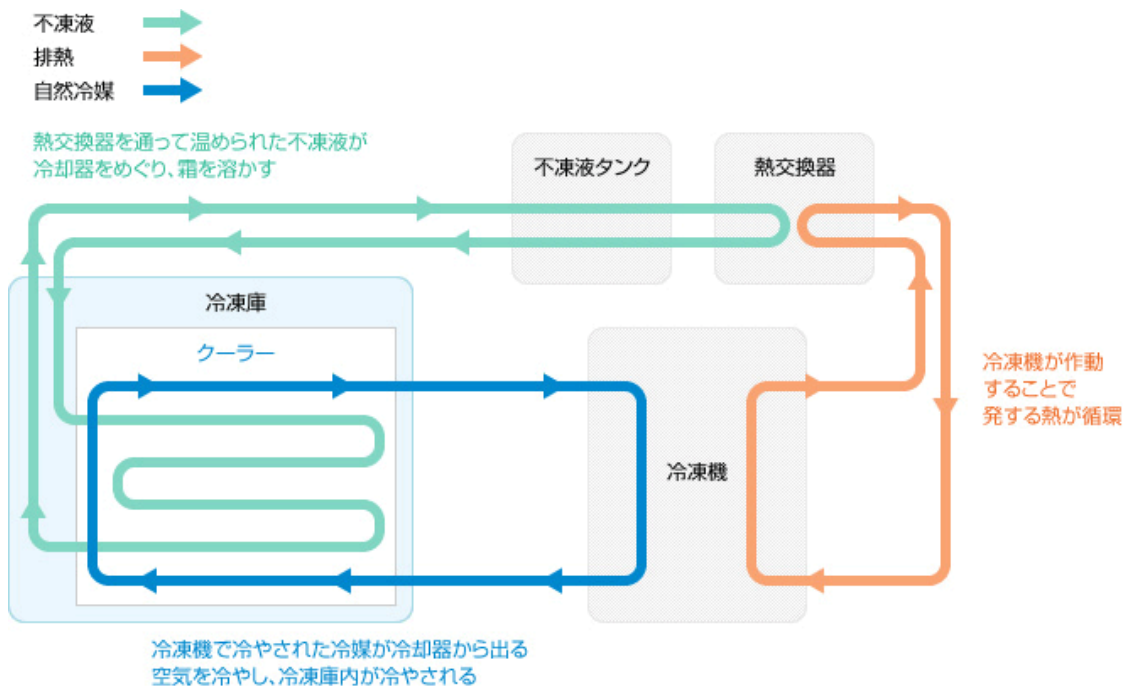
コンプレッサー（40kwH）

冷凍設備更新環境負荷低減（マルハニチロ 宇都宮工場）

2013年度、マルハニチロ宇都宮工場では老朽化した急速凍結庫用冷凍設備を更新しました。マルハニチログループが一丸となって取り組んでいる脱フロン対策も踏まえ、自然冷媒（アンモニア/CO₂）を用いた最新鋭の冷凍機を導入しています。この冷凍機は、凍結庫内の冷却器の霜取りに、従来型の散水方式ではなく、冷凍機排熱により加温した不凍液を冷却器のコイル内に通して霜取りを行うなどの先導技術が採用されています。これにともない、年間約227トンのCO₂排出量削減と年間約800トンの水道水の削減効果が見込まれます。

本事業は経済産業省「平成25年度代替フロン等排出削減先導技術実証支援事業」として採択されています。

更新後の冷凍設備の概略図



広島市地球温暖化対策等の推進に関する条例に基づく報告（マルハニチロ 広島工場）

（株）マルハニチロ 広島工場では、広島市の「事業活動環境配慮制度」に基づき、事業活動に伴う温室効果ガスの削減に向け「事業活動環境計画書」及び「事業活動環境報告書」を作成しています。

※ 事業活動環境配慮制度は、平成21年3月に制定された「広島市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき創設された制度です。対象者である事業者には計画書や報告書の作成、公表が義務付けられており、この条例に基づき、広島市に提出した報告書（PDF）をホームページで公表いたします。



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

オゾン層破壊物質の削減

オゾン層破壊物質削減に向けた方針

冷凍・冷蔵設備に冷媒として使用されているフロン（R-22）は、オゾン層破壊の原因物質であることから、2020年までに全廃することが法律で決まっています。また、その代替物質である代替フロン（HFC）もまた、大気に放出されることで地球温暖化への影響が大きいことが懸念されています。

そのため、マルハニチログループでは、“既存のフロン使用設備の更新および新規冷凍・冷蔵設備の購入に当たっては、代替フロンではなく、より地球環境に優しい冷媒である自然冷媒※を使用した設備を採用する”という考えのもと、設備の更新・新規購入を進めています。これにより、オゾン層保護だけでなく地球温暖化にも配慮した設備導入となるように活動を進めています。

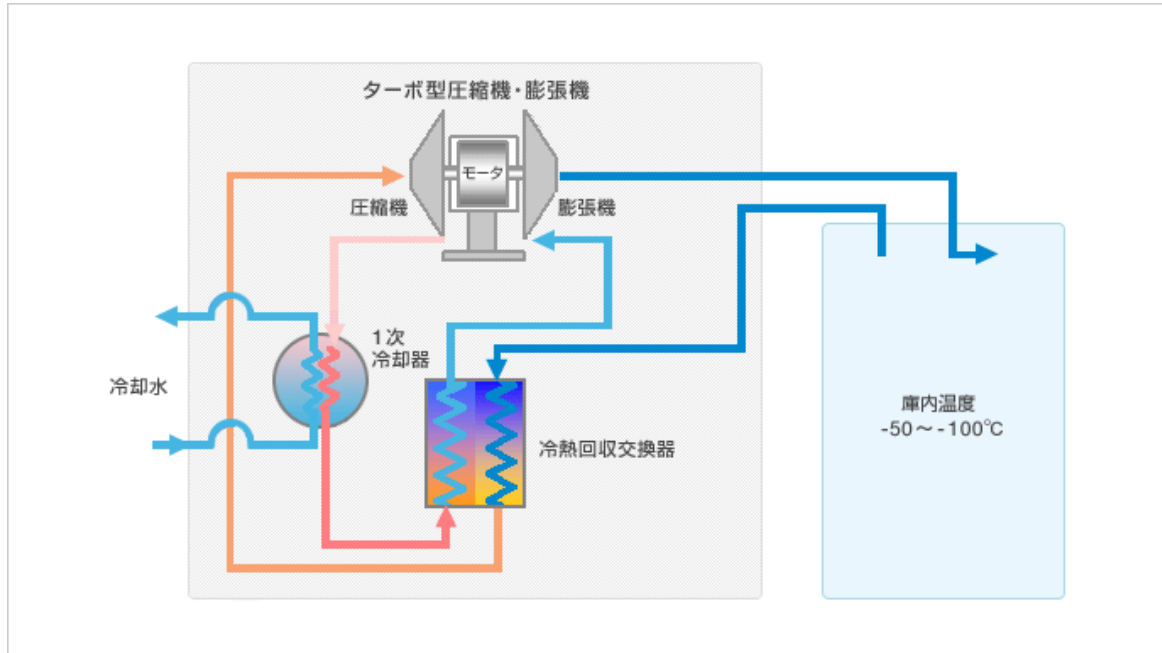
※ 自然冷媒：自然界に存在する物質かつ冷媒となる性質を持つ物質のことで、フロンや代替フロン以外の物質のこと。具体的には、CO₂、イソブタンなど炭化水素、アンモニアなどの物質を言う。

取り組みを一段進めた"空気冷媒" (マルハニチロ九州)

マルハニチログループでの自然冷媒設備の採用は、アンモニアとCO₂を使用した設備が主体でした。2011年度からは取り組みを一段進め、より省エネ性能に優れた"空気冷媒"を採用した超低温設備の導入を実施しました。

マルハニチロ九州では、経済産業省の「代替フロン等排出削減先導技術実証支援事業」を活用して超低温フリーザーを2012年に導入しました。現在、年間約34トンの電力由来CO₂とフロンガス600kg (CO₂換算2,352トン)が削減されています。

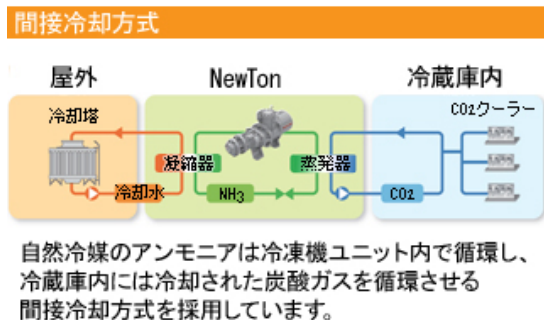
“空気冷媒”を採用した超低温設備のシステム図



フリーザー用冷凍機の自然冷媒化 (マルハニチロ食品 大江工場)

2013年度に、老朽化したフロン冷媒の連続急速冷凍設備を最新式の省エネ型ノンフロン設備へ更新しました。導入にあたり、経済産業省の公募する「平成25年度代替フロン等排出削減先導技術実証支援事業」として採択されています。

本設備にはフリーザー用途におけるCO₂圧力安定化制御に関する技術を取り入れています。本事業の成果として、年間220トンのCO₂排出量の削減を見込んでいます。



大江工場外観

自然冷媒を採用した氷蓄熱空調熱源設備の導入（マルハニチロ食品 宇都宮工場）

工場空調用冷凍機の更新に伴い、ノンフロン設備を導入しました。導入においては、環境省の「平成24年度自然冷媒冷凍等装置導入促進事業」の採用を受けています。

事業におけるCO₂削減効果は、エネルギー起源CO₂削減と冷媒漏洩CO₂換算削減効果を合わせ、2,106.8トンの削減効果が見込まれます。

また、蓄熱方式を採用する事で、日中のピーク負荷の43%を夜間へ移行し、深夜電力を活用と合わせ、33%のランニングコスト低減をはかります。



ノンフロン工場空調用冷凍機

地球環境のために



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

廃棄物発生量・最終処分量の削減

2013年度の総括（目標と実績）

マルハニチログループは、貴重な食資源を取り扱う企業グループとして、資源の有効利用を重要なテーマと位置付け、2011年度から中期三ヵ年環境目標に「廃棄物の削減」を加え、廃棄物総排出量の削減に取り組んできました。

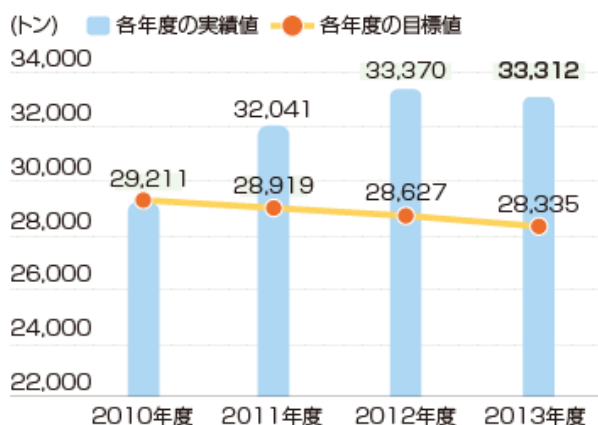
この数値目標として廃棄物総排出量を2013年度までに2010年度比3%以上削減することを掲げ、工場を有する企業が中心となり、工程改善による製品不良の抑制やメンテナンス強化による設備トラブル起因の廃棄物の発生抑制などに取り組んできました。

2013年度の廃棄物総排出量は、グループ全体で33,312トンとなり、2010年度比で4,101トン（14.0%）の増となりました。

増加要因は、2012年度から新たにヤヨイ食品およびマルハニチロ九州などの廃棄物排出量を集計に加えたことによりますが、この新規集計分を除いた2013年度の結果は、グループ全体で2010年度比4.5%増※となります。

※ 2010年度の計画策定時点と2013年度のデータが揃っている企業32社を抽出し、集計。

廃棄物排出量削減／進捗状況



※ 2012年度から、新たにヤヨイ食品、マルハニチロ九州など6社を集計対象に加えています。

バイオガス発電設備の導入（マルハニチロ 下関工場）

下関工場は、果実入りカップゼリーの主力生産工場で、「今日のくだもの大満足」シリーズ、「フルティシエちょっと贅沢」シリーズなど多くの商品群の生産を行っています。使用する果実はシロップ漬けの原料を使用し、このシロップ液のほとんどが生産工程中に分離され産業廃棄物（動植物性残渣）として廃棄されていました。多い日には一日5トン以上のシロップ液が分離され、年間では1,000トン以上にもなります。この動植物性残渣の減量化は、工場が解決すべき大きな環境改善課題となっていました。

2012年度

工場でのリサーチの結果、動植物性残渣をある種のバクテリアにて分解処理することにより、下水道放流が可能になるまで環境負荷を軽減できる可能性があることを情報として入手しました。また、シロップ液の分解過程で生成されるメタンガスは“バイオガス発電設備”と“メタンガスボイラー”でエネルギーに変換できること、さらに、発電時に発生する熱も工場では利用可能であることなど、環境負荷の軽減だけでなく、省エネルギー面でも大きな効果が得られる可能性が推察されました。

まず、約半年をかけて、廃シロップの分解処理及びメタン発酵※の試験を地元企業と共同で進めました。この試験においては、良好な結果が得られました。

2013年度

試験データをもとに本設備導入の提案を行い、承認後8月より建設に着手、12月には試運転を開始しました。2014年1月からは、排出されるシロップ液の大半を自設備にて処理できるようになり、環境負荷の軽減に寄与しています。また、発生したメタンガスを利用した“バイオガス発電設備”も順調に稼働し、発電した電気は自設備消費分を除き、“再生可能エネルギー固定価格制度”を利用して中国電力へ売電しています。発電使用以外の余剰メタンガスは、メタンガスボイラーにより蒸気に変換され工場内で全量使用されています。発電の際に得られる熱量は、各工場から排出される排水の加温に利用し、省エネルギーにも寄与しています。

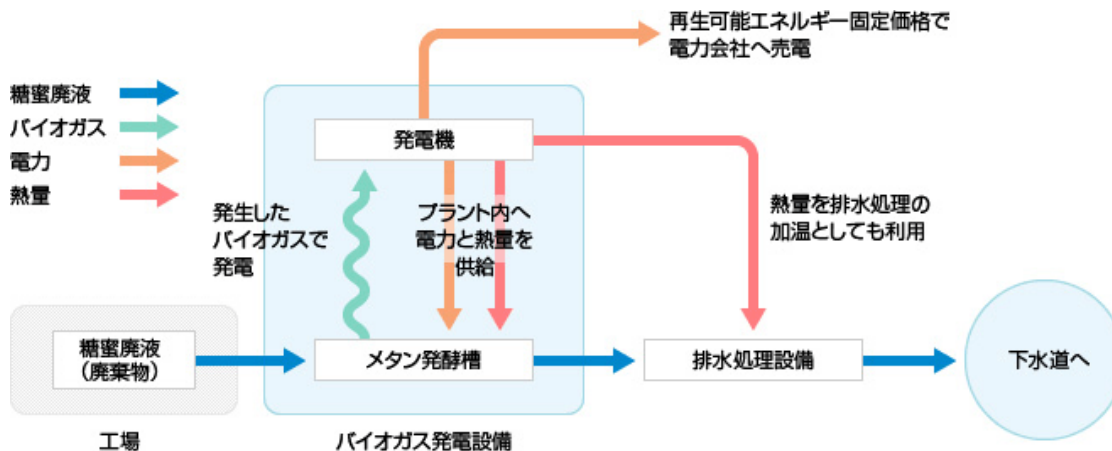
2014年度

下関工場では、1,000トン以上の廃シロップ液の自家消化、それに伴う動植物性残渣処理費用の軽減、処理過程で発生するメタンガスの有効利用、および発電時に発生する熱量の再利用などにより、年間2,000万円以上のコストメリットを見込んでいます。

さらに、本設備は、山口県が設定する“廃棄物の減量化およびリサイクル事業”の補助対象に認定されました。

※メタン菌（嫌気性菌）にシロップなど動植物性残渣を原料として与え、処理槽内で発酵させることで、メタンガスを取り出す方法。ここで発生するメタンガスをバイオガスと言います。フローは、以下の通りです。

バイオガス発電設備フロー図





- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

環境関連データ

エネルギー投入量

	2012年度		2013年度	
	使用量	エネルギー (CJ)	使用量	エネルギー (CJ)
ガソリン (kl)	603	20,859	667	23,091
灯油 (kl)	764	28,024	753	27,643
軽油 (kl)	1,203	45,354	1085	40,890
A重油 (kl)	32,033	1,252,481	29,637	1,158,793
B・C重油 (kl)	509	21,344	504	21,134
液化石油ガス (LPG) (kg)	2,825,499	143,535	2,642,091	134,218
液化天然ガス (LNG) (kg)	0	0	0	0
都市ガス (m ³)	14,500,054	649,602	12,427,999	556,774
電気 (kWh)	297,893,945	2,970,003	296,465,953	2,955,766
合計	-	5,131,204	-	4,918,309

水使用量

	2011年度	2012年度	2013年度
上水 (m ³)	1,786,056	1,885,988	1,792,104
工業用水 (m ³)	735,328	1,247,019	1,373,929
地下水 (m ³)	3,451,559	4,083,825	3,225,736
海水、河川水 (m ³)	14,270	5,106	3,524
合計	5,987,213	7,221,938	6,395,294

排水量

	2011年度	2012年度	2013年度
下水道 (m ³)	1,728,177	1,942,644	1,843,152
公共用水域 (m ³)	1,389,902	1,613,790	1,296,017
合計	3,118,079	3,556,434	3,139,169

食品リサイクル法関連データ

	2011年度	2012年度	2013年度
食品廃棄物等の発生量 (t)	30,662	34,187	32,423
食品廃棄物等の廃棄物としての処分の実施量 (t)	6,973	8,732	6,879
再生利用等実施率 (%)	77.3%	74.5%	78.8%



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

生物多様性の保全

基本的な考え方

日本経団連は、2009年3月、生物多様性に一層配慮した事業活動を推進するため、「日本経団連生物多様性宣言」を発表しました。

マルハニチロホールディングスでは、その趣旨に賛同し、2009年12月から同宣言の推進パートナーズに参加しています。また、グループとして宣言に沿った具体的な取り組みを開始するために、2011年度からの中期三ヵ年計画で施策の立案を進めています。

自然保護基金への寄付

マルハニチログループでは、日本経団連自然保護基金の活動趣旨に賛同し、同基金に毎年寄付金を拠出しています。

日本経団連自然保護基金は、アジア太平洋地域を主とする開発途上地域の環境保全活動を展開している非営利の民間組織プロジェクトへの助成や、国内の環境保全活動への助成などを目的に設定された基金です。

国際海岸クリーンアップキャンペーンへの参加

マルハニチログループでは、「国際海岸クリーンアップキャンペーン」に2003年度から毎年参加しています。この活動は、米国のNGO団体オーシャン・コンサーバンシー（Ocean Conservancy）が1986年から続けている海ごみの漂着物調査キャンペーンです。

多くの事業が海からの恵みによって支えられている企業グループとして、社員が活動に参加して海洋ごみの問題に触れることは大きな意義があり、グループの各従業員に積極的に参加するよう促しています。

2013年度は、マルハニチログループ単体で荒川河川敷のクリーンアップ活動を実施。従業員とその家族の合計33名が活動に参加しました。

※ 研究によると海ごみの約6～8割は川から発生しているとされています。特にプラスチック類が微細化して海に流れこむと生態系に大きなダメージを与えることが懸念されており、その回収や発生抑制に向けた取り組みが重要視されています。



- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

環境配慮商品

商品容器・包装における省資源化への取り組み

マルハニチログループでは、環境負荷の低い容器の開発に向けた取り組みを行っています。

容器の軽量化（ダウンサイジング）を行うことで、省資源はもとより、重量の軽減による物流時のCO₂排出量の削減や、梱包サイズの小型化による配送効率のアップなどの効果が見込まれます。今後も継続して、省資源のみならず、ユニバーサルデザインにも配慮した容器包装の開発に取り組んでいきたいと考えています。

TOPICS

容器包装開発によって省資源を実現した商品

改善事例1 マルハニチロ食品 「海老と野菜の塩焼きそば」

トレー及び外包装のダウンサイジングを実施しました。



「海老と野菜の塩焼きそば」外袋とトレー。両方合わせて2.6g軽量化したことで、年間4,663kgもの削減を実現しました。

改善事例2 ニチロ畜産 「昔ながらの味 ラムジンギスカン」

外包装のダウンサイジングを実施しました。



「昔ながらの味 ラムジンギスカン」の外袋。縦幅を10mm縮小し、0.37gの軽量化を実現しました。

表彰実績

- 株式会社マルハニチロホールディングス、株式会社マルハニチロ水産、株式会社マルハニチロ食品、株式会社マルハニチロ畜産、株式会社マルハニチロマネジメント、株式会社アクリフーズの6社は、2014年4月1日、経営統合してマルハニチロ株式会社となりました。
当ページは2013年報告内容となっているため、旧会社名で記述されています。

マルハニチログループでは2013年度、国内外の団体から下記の表彰を受けています。

2013年度

マルハニチロ食品が『ランズ賞』を受賞（第22回日本脂質栄養学会）

マルハニチロ食品が、2013年9月6日、第22回日本脂質栄養学会において、「ランズ賞産業技術賞を受賞しました。

『ランズ賞産業技術賞』は脂質栄養に関わる産業技術の面で堅調な業績をあげた者に対して授与される賞です。島根大学との共同研究による「DHA入りリサーラソーセージ」を使った認知症予防効果の臨床研究の功績が評価されました。



マルハニチロ食品が「第17回業務用加工食品ヒット賞」を受賞

マルハニチロ食品「やさしい素材シリーズ」が、日本食糧新聞社主催の「第17回業務用加工食品ヒット賞（給食・惣菜部門）」を受賞しました。

同賞は、外食業務用食品メーカー、流通業界の活性化を図るとともに業務用商品の地位向上を目指して、和食、洋食、中華、給食・惣菜の4部門でそれぞれ3商品が選出されています。

